

都留市における加工業者と連携した 米粉用米生産の取り組み

「総合技術普及センター」



●直播栽培現地検討会

栽培特性
米粉パン加工適正
「あさひの夢」



●米粉パン加工適正の検討

都留市では、市内の加工業者から地元産の米粉用米の供給が求められているため、平成21年から市が中心となって栽培を行っており、平成23年には4ha作付けされました。米粉は、小麦粉の代替として使用することで、食料自給率の向上に貢献する食材として注目されています。しかし、主食用米と比べて単価が安いと、収量の向上と、省力・低コスト化技術の検討が求められています。

平成22年には、市、加工業者、試験研究と連携して品種検討を行った結果、栽培特性・米粉パン加工適正の両面から、「あさひの夢」が有望品種として選定されました。

平成23年には、省力・低コスト化を図るため実証ほを設置し、疎植栽培と鉄コーティング直播栽培を検討しました。実証ほでは慣行栽培並みの収量が確保でき、現地検討会・成績検討会を開催した結果、疎植栽培・直播栽培の省力・低コスト化効果が理解されました。

また、巡回指導により穂肥の施用を徹底するなど、収量の向上を図っています。

米粉で作ったパン等は、地域の道の駅やPA、生協や学校給食等で販売され好評で、一層の拡大が期待されています。新しい特産品として定着するよう、今後も引き続き実証ほを設置し地域に適した栽培技術を検討するとともに、技術の普及を図っていく予定です。



●飼育中の甲州頬落鶏（ほおとしどり）

新銘柄鶏 甲州頬落鶏の 生産拡大に向けた 取り組みについて

「畜産技術普及センター」



●名前の由来

「甲州頬落鶏」という名前は「頬が落ちるほど美味しい」というイメージから、山梨県の農政アドバイザーを務める小泉武夫東京農業大学名誉教授が命名しました。また、甲州頬落鶏の肉が甲州ワインにとっても合うことから、「天下無敵の頬落鶏に甲州ワインはピタリンコ」というキャッチフレーズも同時に考案されました。

全国的にも知名度の高い甲州地どりは、肉の締まり、歯ごたえの良さとうま味に定評がありますが、畜産試験場は、近年の消費者の多様化するニーズに応えるため、ブロイラーよりも美味しく低価格で購入しやすい肉用鶏を新たに開発することとしました。父親には大型鶏のレッドコーニッシュ、母親には甲州地どりをういた新銘柄鶏「甲州頬落鶏」を作出し、平成22年より肉用鶏農家で生産が行われています。甲州頬落鶏は、肉質に適度な歯ごたえや旨みを付与するため、ブロイラーよりも長い84日程度の飼育期間が必要です。また、肉質の斉一性を高めるために、飼料給与や飼育密度などの飼養基準を定めたマニュアルが作成されています。畜産技術普及センターでは、甲州頬落鶏の生産拡大に向けた取り組みを支援しておりますので、甲州頬落鶏の生産に興味のある方は、畜産技術普及センター又は家畜保健衛生所までご連絡下さい。

Yamanashi Agricultural Extension Service Information 山梨県普及センターだより No.16

平成24年
3月21日発行

編集／発行●山梨県総合農業技術センター
住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105
電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html
E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



果樹の省力化技術の普及について

果樹栽培者の高齢化や耕作放棄地対策として、管理作業の省力化が求められています。

「果樹技術普及センター」

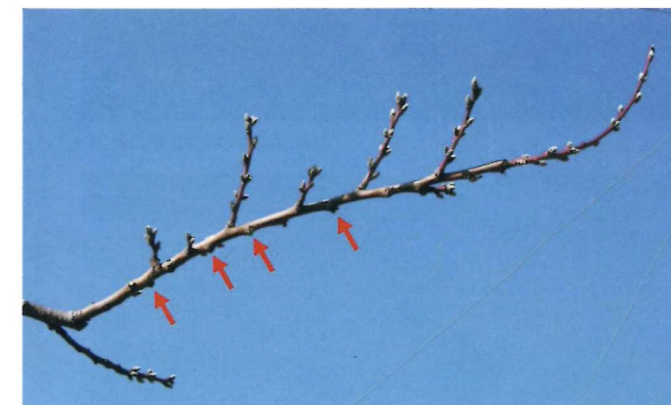
●早期着果調節後の結果枝の着花状況 短果枝(左上)、中果枝(右上)、長果枝(下)

果樹栽培者の高齢化や耕作放棄地対策として、管理作業の省力化が求められています。

そのため、果樹技術普及センターでは、本年3月2日に果樹試験場試験研究成果情報で発表された「モモの早期着果調節と短果枝削減による省力化」の普及に取り組めます。

この技術は、摘蕾・摘花を主にした早期の着果調節で、仕上げ摘果までの着果調節の作業時間を約50%削減、短果枝数の削減では約30%削減が可能です。また、変形果や核割れ果発生への影響はともに小さく、しかも果実重の増加傾向が認められます。

この技術を現地実証し、すみやかに普及を図るため、県内の各モモ産地に展示ほを設置し、検討会等を開催する中で、栽培者・指導者の技術の理解を図ることとしています。今後も、省力栽培技術を農家の皆さんに組み込んでいただけるよう支援をしていきます。



●「30%短果枝削減後の枝の状況(矢印部分の短果枝を剪除)」



Aim at the No.1 peach of Japan.
日本一の桃を目指して...

RENAISSANCE OF AGRICULTURE IN YAMANASHI 2012

やまなし農業ルネサンス 普及センターの活動報告



●地元産果物を使った和菓子



●商品開発検討会

地元産果物を利用した商品の開発に取り組んでいます！

「中北地域普及センター」

中北地域には農産物直売所が多く、直売所を拠点に農産物や農産加工品を生産販売する農村女性起業グループや法人が数多く活動されています。なかでも「南アルプス特産品企業組合ほたるみ館」は、県内の先駆けとして、農家の女性を中心となって立ち上げた組合です。毎週土曜日には朝市を開催したり、「まちの駅くしかた」では毎日新鮮な野菜や手作りのお饅頭、お総菜などを販売したりと活発に活動しています。なかでも「よもぎまんじゅう」は看板商品として地元で愛され、朝には売り切れてしまう人気商品です。普及センターでは、ほたるみ館の活動がさらに活性化するように、フードスペシャリストを招き、新しい商品の開発に向けた検討会を開催しました。講師のアドバイスを参考に、地元産果物を利用した商品の開発に取り組んでいます。新しい商品が店頭に並び日が楽しみです。



●ほたるみ館



●ゆずもぎ取りボランティア



●ゆずの選果ボランティア

日出づる里活性化組合を中心とした地域活性化への取り組み

「峡南地域普及センター」

ダイヤモンド富士で有名な富士川町穂積地区は、関東有数のゆず産地です。産地の中心的な存在である「日出づる里活性化組合」は平成17年に設立され、特産のゆずを活用した加工品作りや手入れの行き届かなくなった園の管理を行ってきました。さらに平成19年からは「ゆずもぎ取りボランティア」、「ゆずオーナー制」にも取り組んでいます。今年は穂積キャラクターである「穂積柚太郎」の妹の「柚香ちゃん」も誕生し、キャラクターを活用したPRを行っています。今年度は新たな試みとして、地域にある小室山妙法寺、高村光太郎文学碑などの名所旧跡やダイヤモンド富士などの景観を楽しむウォーキングプランを検討しています。普及センターでは富士川町、やまなし観光推進機構と連携し、実際に現地を歩いたり、先進地での視察勉強会を行い、ウォーキングプランの実施に向け活動しています。また、「私たちの一品事業開発支援事業」を活用した新たな加工品開発にも取り組んでいます。今後も町や関係団体と連携し、穂積地区の活性化に向けた都市農村交流イベントの実施や加工品開発の取り組みを支援していきたいと考えています。



●柚太郎と柚香ちゃん



●GAP推進会議の様子



●残留農薬分析センターでの視察研修

果樹産地での新たな取り組み

「峡東地域普及センター」

昨今、食品に関する様々な事件を背景に、食の安全確保への要望、加えて環境に配慮した農業に対する消費者の関心が高まっています。また、供給する立場である生産者は、消費者の要望に配慮した生産とともに、農業経営の安定・効率化を図るために、労働安全の確保や販売管理体制の実現が課題となっています。JAフルーツ山梨「山加かのいわ果実部」では、これらの課題を解決するため、今年度からGAP（農業生産工程管理）手法の取り組みが開始されました。GAP手法とは、産地で農産物の安全性を脅かす可能性を未然に防止するためのルールを決め、それに基づき農作業を実践、生産履歴の記帳を行い、取り組み結果から来年度に向け、栽培上の課題やその改善策を検討し、より良い農業を実践することです。果実部では、役員がGAP手法の試行を開始し、JA営農指導と峡東地域普及センターとが連携して、取り組み導入の支援を行いました。5月に産地で取り組むルールを決め、以後チェックリストでの点検を実施しました。また、11月以降の推進会議では、今年度の実施状況の確認や来年度に向けた点検項目の検討を行いました。また、先進地であるJAハヶ岳や残留農薬分析センターへの視察研修や、専門の指導者による研修会を開催し、部会員のGAPに対する理解を深めていきました。GAP手法を実践した生産者から、「安全安心な農産物の生産や経営改善を図ることに効果的である」とした意見が出たこと等から、地域内に浸透しつつあることが確認できました。今後も普及センターでは、部会全員へのGAP手法の推進により、更なる産地のレベルアップ、イメージアップにつながるよう支援していきます。

良い農業ははじめました！
Good Agricultural Practice: GAP



●初めてのマルチ張り(大月市)



●キャベツの収穫(西桂町)

農業基礎技術講習会を3市町で開催しました

「富士・東部地域普及センター」



●夜の学習会(都留市)

富士・東部地域普及センターでは、昨年度より管内の市・町と連携して農業の基礎技術講習会を始め、平成23年度は西桂町、都留市、大月市の3か所で開催しました。西桂町と今年から始めた大月市では、農業の知識や経験が全くない方を対象に、クワ・カマの使い方など初歩から指導しました。これらの教室では、畑を使い実際の作業を学ぶことが好評で、ロコミなどで受講生が徐々に増えました。都留市では、水稻や野菜の時期毎の栽培管理を学ぶ講習会を開催しました。その結果、スイートコーン、エダマメの試作をした受講生が、平成24年度は栽培面積を拡大して観光つみ取りに取り組む動きも出ています。来年度は、2年次生向けに内容を充実して、様々な形で農業に携わる人々を増やしていきたいと思っています。